

| | |
|-----------|--|
| 論文番号 | (第 18 回研究会 2019.7.13 於青山学院大学) |
| タイトル | 母語で読む古典と現代日本語で読む古典の解釈の違い —外国人研究者による古典文読解法選択の背景— |
| 著者名 (所属) | 山口真紀 (東京工業大学大学院博士後期課程)、野原佳代子 (東京工業大学) |
| 連絡先 E メール | makiyama814@yahoo.co.jp (山口真紀) |
| 論文内容 | <p>(背景および研究目的)</p> <p>外国人研究者への古典日本語教育は、必要性が指摘されてきたもののあまり研究されていない。海外では、古典日本語の入門期に母語による翻訳教育を行う教育機関が多く存在する。しかし、日本研究を行う外国人学習者は、実際に古典日本語で書かれた文献を読む場合、母語による解釈ではなく、現代日本語による解釈を行い、内容を理解しようとする傾向が見られる。この背景には何があるのだろうか。</p> <p>(検討方法等)</p> <p>本研究では二つの調査を行い、古典日本語文の現代語翻訳と母語翻訳を通して得られる文章の理解像にどのような違いがあるのかについて調査した。『大鏡』の現代語訳と英訳について Guerra (2012) に基づいた翻訳ストラテジー分析を行い、翻訳ストラテジーの使用実態について調査した。そして、その結果についてジュネットの物語論 (1985) に基づき、原文、翻訳文の「語りの水準」を分析した【調査①】。また、日本語学習者の文章読解における状況モデルを作絵によって探った牛窪・高村 (2017) の手法をもとに、日本研究を行う外国人学習者 8 名を対象に『今昔物語』の英訳、現代語訳から得られるイメージを絵に書いてもらう実験を行った。そして、その結果を池上他 (1994) のコミュニケーションモデルを用いて、コード化の違いによるコミュニケーションの違いを分析した。【調査②】。</p> <p>(結果および考察)</p> <p>調査①の結果、英訳では、物語の語り手の登場人物への敬意が暗示化されることにより、身分の高い人々について敬意をもって語る語り手の存在が暗示化され、語りの水準が原文と変化している一方、現代語訳では敬語の訳出によりそれが保たれていることがわかった。また、調査②では、英訳と現代語訳の作絵には違いが見られ、英語によるコード化を行った場合は、物語の舞台や登場人物の年齢設定が原文と異なる状況モデルが形成されることがわかった。</p> <p>(結論)</p> <p>以上の二つの調査を通じ、語りの水準、語用論的な解釈を含めた意味の伝達の点においては、英訳よりも現代語訳のほうがより原文の内容を外国人研究者に対し忠実に伝えていることが明らかになった。</p> |
| 参考文献 | <p>池上嘉彦, 山中桂一, 唐須教光 (1994). 文化記号論: ことばのコードと文化のコード. 講談社.</p> <p>牛窪隆太, 高村めぐみ (2017). 読解教育における「正しい理解」についての試論: 物語文を用いた作絵活動の実践報告から. 関西学院大学日本語教育センター紀要. 6. 5-20.</p> <p>ジェラルール・ジュネット (1985). 物語のディスコース方法論の試み. 書肆風の薔薇.</p> <p>Fernández-Guerra, Ana. 2012. Translating culture: problems, strategies and practical realities. <i>Art and Subversion</i>. No. 1. Year 3.</p> |